体育・スポーツ指導力養成プログラム　アンケート調査結果

平成 29 年度プログラム修了生（19 名分）

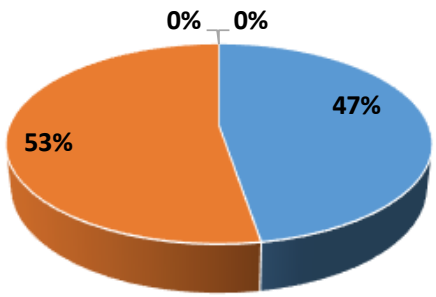
*なお，結果は質問項目から一部抜粋しています．

全結果を閲覧したい方は，スポーツ指導者養成オフィス 075-644-8143 までご連絡下さい．

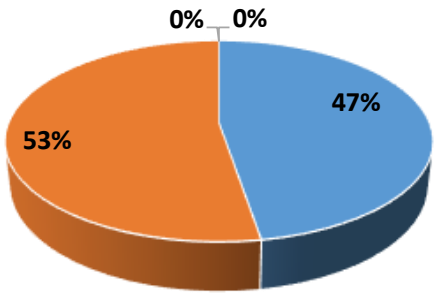
Q1．下記項目に関する理解について，プログラムにより理解が深まったか？

とても深まった　やや深まった　あまり深まらなかった　全く深まらなかった

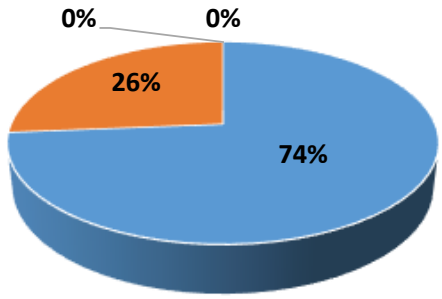
■ 児童・生徒の集団を統率・指揮する仕方



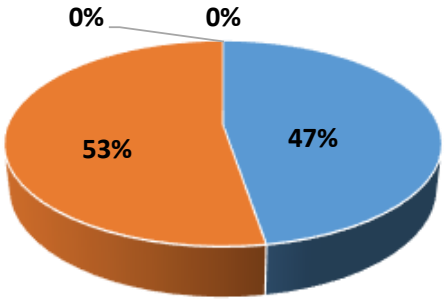
■ 児童・生徒の興味・関心・意欲を高める指導の仕方



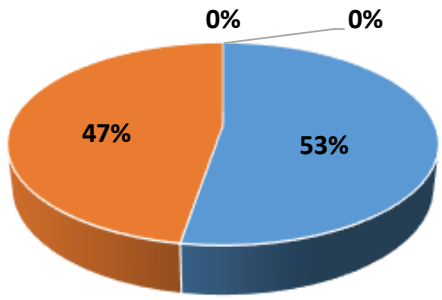
■ 児童・生徒とのコミュニケーションの取り方



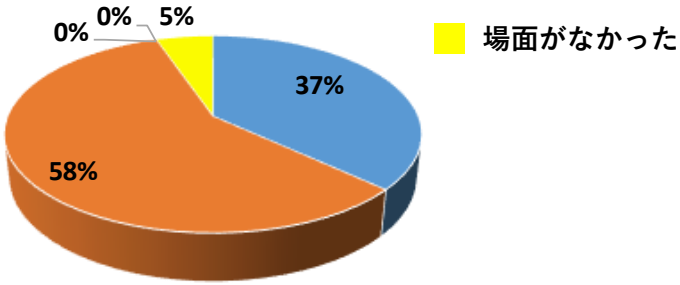
■ 児童・生徒への声掛け（発問・注意）の仕方



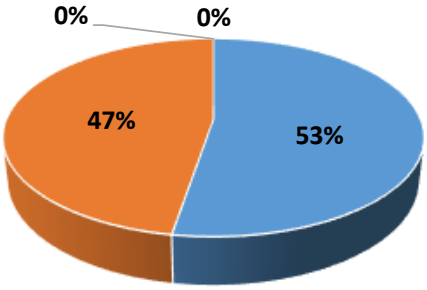
■ 安全（けが・事故の予防）への配慮の仕方



■ 発育発達に応じた練習メニュー・活動内容



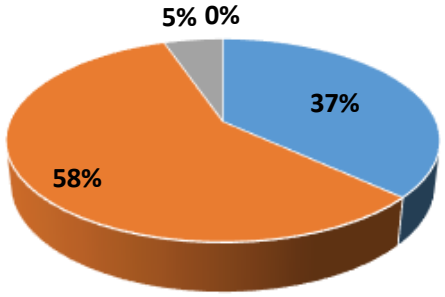
■ 指導者（教員）としての心構え



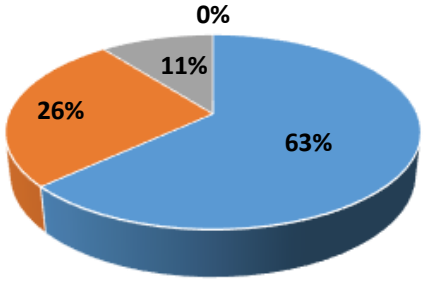
Q2. 下記項目に関する実践力について，プログラムにより実践力が高まったか？

とても高まった　やや高まった　あまり高まらなかった　全く高まらなかった

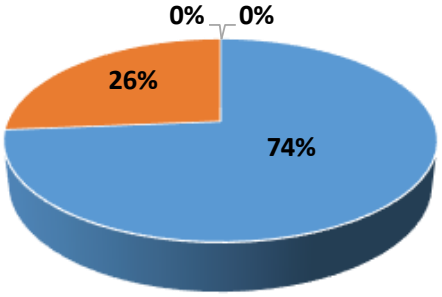
■ 児童・生徒の集団を統率・指揮する力



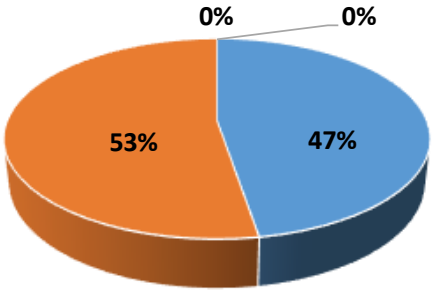
■ 児童・生徒の興味・関心・意欲を高める指導力



■ 児童・生徒とコミュニケーションをとる力



■ 児童・生徒への声かけ（発問・注意）する力



Q3. プログラムを受講し，見つかった課題，高まった力は?（自由記述，一部抜粋）

■ 見つかった課題

✓ 指導について

・子どもの意欲を高められるような運動の知識・技術が足りないと感じた．

・円滑に進行していくために，常に周囲に気を配る力を付けていく必要があると感じた．自分の専門ではない種目でも指導できる力が必要と感じた．

・子どもたちの気持ちを理解した上で，指導・フォローをしていく力がまだまだ足りないと感じた．

✓ 集団のマネジメントについて

・活動している児童全体に目を向けるのが苦手だと感じた．

・子ども達を個々で見るのではなく，集団として見ることの重要性を感じた．

✓ その他

・注意の仕方が課題だと感じた．具体的には，スポーツをする楽しさが深まるような注意の仕方はどのようなものか，叱られることで楽しくないと思わせないためには，どのような言葉かけの工夫が必要かを考えないといけないことに気がついた．

・子どもとの適切な距離のとり方が課題であった．また，遊んでいるときや練習中の様子から児童の特徴をよく理解し，それらを踏まえて児童のやる気を引き出す内容を考えることも課題だと感じた．

・小学生の頃からスポーツをやっていたので，体力には少し自信がありましたが，体力が全く足りないことに気づきました．小学校では 1 クラス 20・30 人のクラスもあると思うので，それだけの人数の相手をするために，俊敏に動けるようになりたいと感じました．

■ 高まった力

✓ 指導について

・子どもと関わる際の目線・位置の重要さに気づくことができた．

・子どもが教えてほしいと言葉に出してはくれなくても，子どもの様子を見て気づいて，自分から積極的に指導にあたれるようになった．子どものやる気を引き出せるようなった．

・少しだけではあるが，運動における知識や技術が高まったので，補助ができるようになった．

✓ 集団のマネジメントについて

・集団に指示を通すときに気をつける点について，様々な発見があった．また，実際に児童と関わる事で学年ごとによる違いなどを知ることができた．

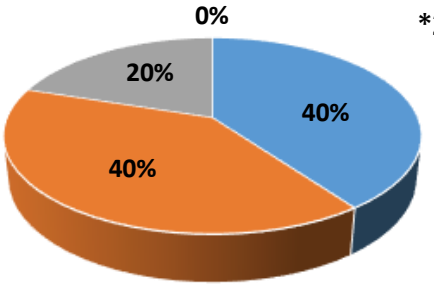
・集団で活動する際の安全面への配慮の仕方，子どもの興味をひきつける話し方や活動の工夫を，先生や指導員の方の活動から学ぶことができた．

✓ その他

・子どもとの関わり方に関することなど，スポーツ指導だけでなく授業作りや普段の生活での指導方法に通じることを学ぶことができた．

・どのような場面で，どのようなところに危険がひそんでいるのかをあらかじめ察知し，安全に配慮する姿勢が身についた．

Q4．プログラムの受講が，他の学生生活場面で役立ったか？（授業，教育実習，教採など）



*2 回生が多数のため回答は 5 名のみ

・児童に声かけをする際の声のトーンや大きさを学ぶことができ，参加研究で子どもと関わる際，実践することができた．

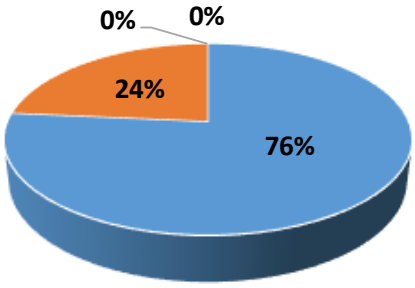
・指導案を書く際，児童がどのような反応を示すか考える時に役立った．

・附属学校参加研究で，小学生のスポーツテストの補助をする際の声かけや接し方に役に立った．

Q5．プログラムでの，客員教授の指導，インターンシップⅠ／Ⅱは満足でしたか?

とても満足　やや満足　やや不満　とても不満

✓ 客員教授の指導

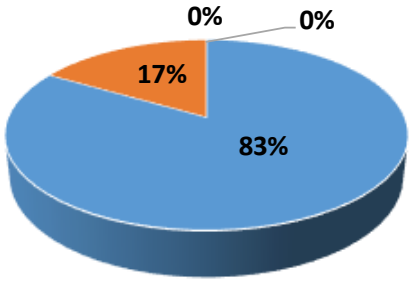


・毎回終わるたびに的確な指導をしてくれて，回数が上がるにつれて自分自身の成長を感じることができた．

・バスケ教室では終了後にシュート練習の指導方法をわかりやすく解説して下さり，体操教室では子どもが活動する姿を例にしながら，子どものつまづきやすい所や指導方法を教えて下さり，勉強になった．

・子どもたちの年齢に応じた特性や指導法などを具体的にいくつも示してもらえた．

✓ インターンシップⅠ／Ⅱ



・実際に子ども達と関わることで，自分自身の課題を認識することができた．

・指導入門を受講したときには，子どもに声をかけることもなかなかできなかったが，インターンシップを進めるにつれて積極的に動けるようになった．自然と子どもとの関わり方や留意点を学べていたのだと思った．

・1 つの競技だけでなく，陸上，バスケ，サッカー，体操に分かれて多様なスポーツを経験できるから．自分の予定を考慮しながら進んでいけるから．

・子どもと長期に渡って関わることができ，その成長も見ることができるのでとても勉強になった．

Q6．プログラムを終えて，最も心に残っている出来事を教えて下さい．（一部抜粋）

・最も心に残っていることは，サッカー教室内で”コーチも真剣に子ども達とゲームをする”ということである．サッカー教室では，児童 VS コーチのミニゲームを行い，児童は指導者がたくみに操るボールを必死に追いかけ，ボールを奪い取り，ゴールにつなげる活動が行われていた．児童は普段体験できない大学生のボール扱いの上手さ，大学生のお兄さんへの憧れを抱き，とても楽しそうにボールを追いかけている姿がとても印象的だった．どんな場面でも，指導者の真剣さは児童の心を動かし，思いを強めることができることを同時に学ぶことができた．スポーツや運動が苦手な子でも遊びは一生懸命する子が多く，遊びを通じて活動に繋げていくことの重要性も学ぶことができた．

・こちら側が一生懸命働きかければ，最初は人見知りをしていた子ども達も心を開いてくれること．私の働きかけで何か技ができるようになったら，最高の笑顔を見せてくれること．台上前転ができなかった子が，十分な知識がない私が一生懸命考えてアドバイスをして．その子ができるようになった時，嬉しそうな顔で「ありがとう」と言ってくれて，とても嬉しかった．

・指導入門からインターンシップⅡを通じて最も心に残っていることは，”子どもの成長の速さ”です．インターンシップⅡは７日間参加できるので，特に子どもの変化成長が感じられました．その中で，１回目の練習ではできなかった細かいドリブルや周りを見ての動き方など，７回目には全体的にできるようになっていて驚きました．子どもの伸びしろを活かす為に，やる気を引き出したりポイントを押さえた指導方法を考えることが必要なのだと思いました．その１つとして，今回の場合は少しずつレベルを上げて目標設定をしたり，対抗心を出せるような内容や声かけをしたりということがありました．これらはスポーツ指導に限ったことではないと思います．小学校教員になった際の体育の指導はもちろん，普段の授業や子どもの関わり方にも活かしていきたいと思います．

・体操教室で，なかなか跳び箱をクリアすることができない女の子がいました．先生お手製のクーラーボックスを跳び箱に見立てたりして，何度もチャレンジしていました．『手をもう少し前にしてみたら？』，『踏み切りの足は揃えて』とか色々アドバイスをしていました．何回もクーラーボックスで練習した後，跳び箱を実際にやってみると成功しました．その時の女の子の笑顔が忘れられません．子ども達が，”できる！”という達成感を味わうことのサポートをすることができるっていいなぁと思いました．

・体操教室で鉄棒が苦手な男の子を指導されていた先生が，小さい時にどういう遊びをしていたかが，現在の苦手としている動きと関係が深いと話されていたのが印象に残っています．現在の子どもの姿だけでなく，その子が育ってきた背景にも考えを及ばせ，指導を行うことの大切さを学ぶことができました．自分たちで準備運動の遊びを考えて活動していたことで，ゲームのルールを伝える難しさや学年に合わせたルールの工夫についても学ぶことができました．